

# おお大勝利

平成 29 年度山東サッカー部報第 9 号 (7 月 12 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 新チーム厳しい船出 Y1で大敗

7月8日(土) Y1 第8節米沢中央 A 戦が山形市球技場でありました。リーグ戦後期のスタートということで、新チームで臨む。新チームで臨むとは、もちろん、3年生の引退を経て1・2年生で戦うという意味だが、去年は**サッカー小僧ユート**が3年生ながら一人だけ「残り」、10月の選手権まで戦った。この「一人だけ」というのが味噌で、これまでも「みんなが残るんであれば残りたい」と言っていた選手はたくさんいたが、それでは甘く、「**みんなが残らなくても俺は残る**」という選手でなければ、**各種障害を乗り越えて残れるものではない**。だって、受験勉強と部活動なんて、そんなに簡単に両立できるものではない。去年のユートには、「お前がサッカーを頑張るのは当然として、受験勉強でも同じように頑張ってくれないと、結局後輩は『やっぱり両立できないんだな』」と思って、選手権まで残る選手がいなくなる。今後選手権まで残る選手が出るかどうかはユートの勉強にかかっているぞ。」と発破をかけました。そのユート、**引退した他の3年生よりも成績は伸び**、当初受験できなかったようなレベルの大学にまで受験できた<sup>1</sup>。結局ユートは現在、来年の大学入試に向けて浪人生活を送っていますが、ユートの両立は後輩にも良い影響を与えたと言っておきましょう。

前ふりが長くなりましたが、ユートの残留を受けて? 今年も選手権まで残る選手が現れました。この部報でもたびたび登場している「**ピッチ上の監督**」「**利き足は口**」の**カンタ**。大学でもサッカーを続けるために、できるだけ長くサッカーをやっていたいとのこと。ただし、部活動と受験勉強の両立は甘いものではないし、後輩への影響もある。ユートに対してと同様にカンタにも、「お前が勉強頑張るかどうかで今後山東で『残る』流れができるかどうかが決まるんだぞ」と脅す。「両立頑張れよ」と自分のことだけ言われるのであればそんなにビビらなかつたらうカンタも、重大な責任を背負わされ顔は引きつっておりました。ともかく、**カンタよ、ピッチ内外で自分への厳しさを見せてくれ!**

ということで、第8節、1・2年+3年カンタで臨む。相手は、優勝候補の一角米沢中央 A。思えば今期初戦、手ごたえを感じるとともに Y1 の厳しさを教えられもした逆転負けだった。さて、新チームでどうなるか。**これまで GK+DF の 5 名がすべて 3 年生だったこともあり、守備の面で厳しいことになるのは想定内**。特に、GK ハレルは高 1 から GK にコンバートされ、3年になりやっと安定感が出てきたが、2年生の GK 二人<sup>2</sup>は、現時点でいずれも、素人に毛が生えた程度。守備の崩壊はほぼ確実。ただ、今年必死に頑張れば、来年には守れるチームになれるかもしれない。ということで、**新黒豹 1 年オサ**と上級生のいないところでは毒を吐きまくるとの噂の**新キャプテン 2 年フトシ**を CB にコンバート。どちらも元々は攻撃の

<sup>1</sup> 当初、東北大を受けるレベルでは全くなかったが、センター試験で 8 割取り、東北大経済学部の A0III に受験しました。惜しくも合格はならなかったけども、着実に学力を伸ばした末の受検でした。

<sup>2</sup> 高 1 から始めた**ホタテことソウ**、高 2 から始めた**次期応援団長カイ千**。

選手だが、CB やれる選手がいないので、チーム事情によりやってもらう<sup>3</sup>。右 SB はアダチを継ぐ**新山辺の星 1 年ダイキ**、左 SB は「新庄からやってきました」**1 年ニコラスこと怪盗シオン**。GK はライバルの故障によりポジション争いに「勝った」**2 年ホタテ**。カンタは**出戻り番長 2 年ヨーティ**とともにボランチ。右 SH は「そろそろ後がないことに気づかなきゃならない」**2 年ヤマモト**、左 SH は「高橋コーチからの指導歴では負けません」**1 年ノビーニョことヨシノブ**、FW はおなじみ**2 年キクチャンとタカヒラ**という 11 人。

**清野総監督、工藤先輩、後藤報道局長**のいつもの御三方は、後期に入ってもいつも通りお越し下さる。今節はそれに加え、**現後援会長の岸さん**もお越しになった。OB は、**旧ヨーティ**（山東第 65 回卒）と**シャモジことヨシダ**（66 回卒）をはじめ、引退したばかりの 3 年生もちらほら。保護者や保護者 OBOG の皆さまの厚い・熱い応援団は、新チームの戦いを楽しみに多数集まって下さった。うだる暑さの中、いざキックオフ。

試合が始まると、もちろん押され気味。それは当然想定の内。ただし、**前半 3 分のあまりにあってない失点**はいただけなかった。**山東の DF はたくさんいたのに**、横パスからトラップ一本で簡単に DF ライン裏へと抜けだされて GK との 1 対 1 を許し失点。早過ぎるし、あつけなさ過ぎる。要は**選手間の連携・コミュニケーションが取れていなかった**（1stDF がしっかりチャレンジに勝ててないし、2ndDF がカバーリングに入っていない）ということ。「この試合、何点入ってしまうんだ」と危機感を覚える。しかしその後、**GK ホタテが好セーフを見せた**のと、米中が外しまくったのとで、無失点の時間が続く。「ホタテは『持つてる』な～」と感心。すると、良い奪い方からショートカウンターで好機も作り始める。決定機はついで作れませんでした。何となく迫ったシーンはあった。しかし、前半終了間際、どんな形からだったか忘れましたが、失点し、**前半 0-2**。試合開始直後と終了直前は試合が動きやすく、より高い集中が求められるとか、手堅い戦い方が求められるとはよく言いますが、それができない**稚拙な試合運び**と言わざるを得ない。

後半は、1 分 9 分の展開。前半が 2 分 8 分くらいなので、後半は前半以上に何もできなかったという展開。0 分 10 分でも良いかもしれない（こういう表現が成り立てば）。やられ放題。**ヨーティは鼻血で？ハーフタイムで交代**しているし、**カンタも故障で離脱**。ボランチが二人ともいない形。**ヤマモトとキクチャンは痙攣**、特にヤマモトはそのままリタイア。**途中出場の 2 年カサコー**は訳のわからない形（unlucky とは思えない形）で相手と交錯し、すぐ退くというお粗末ぶり。**はっきり言って、2 年生が不甲斐ない<sup>4</sup>。1 年生も高校生のレベルではない**。ということで、後半は目も当てられない有様で、4 失点。結局 0-6 で敗戦。

**マークが甘い**（マークし続けるポジショニングが身につけていない）、**限定を守れない**（平気で切り返しを許す）、**ワンツーに付いていけない**（ボールをはたかれるとそのボールを見つけてしまいマークの相手を取り逃す）、という守備の基本が全く身につけておらず、はっきり言って守りが滅茶苦茶。もちろん山東の指導の問題ですが、**正直、九九のわからない学生に高校数学を教えるのと同様の無力感**を感じる。このチーム、こういう基礎の基礎からやっていかなければならない。ただ、日曜日の練習試合を観るに、**下手は下手なりに学ぼうとする姿勢があり、このチームの可能性も同時に感じています**。いずれにしてもこれからですね。すぐ次節です。また応援よろしくお願いします。

**7 月 17 日（月）Y1 第 9 節 VS 日大山形 A 10:30~ @ 山形市球技場**

<sup>3</sup> チーム事情により、と書きましたが、オサは後ろのポジションの方が適性に合っている、と私は見ています。フトシはやはり前の方が合っているでしょうが、彼が今後前のポジションをやるためにも、後ろを経験しサッカー IQ を高める必要があると思います。

<sup>4</sup> **バサシことババ**と**ミヤガワことカヌマサ**の二人は 2 年の途中出場組で持ち味を発揮したと思います。